

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：82702

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12252

研究課題名（和文）相模川中流域の仏像彫刻に関する調査研究

研究課題名（英文）A study of Buddhist Statues along Sagami River

研究代表者

神野 祐太（Jinno, Yuta）

神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸員

研究者番号：40757473

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では相模川流域に伝わる仏像について調査と研究を実施した。16件の仏像を調査し、基礎データ（法量・形状・品質構造・保存状態・伝来等）と高精細の画像データを得ることができた。これらの研究成果は2020年秋に神奈川県立歴史博物館で開催された特別展「相模川流域のみほとけ」や研究成果報告書、論文等に盛り込んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでほとんど注目されてこなかった相模川流域の仏像に注目した。特別展「相模川流域のみほとけ」を開催し、一般にも広く当該地域の彫刻についてアピールできた。当館がこれまで蓄積した彫刻調査ノートや画像を利用した。すでにある情報から調査対象の彫刻をリストアップすることで短い研究期間の時間短縮をはかるとともに情報が蓄積される地域の資料センターとしての博物館という調査手法を確立できた。

研究成果の概要（英文）：This research examined Buddhist statues along Sagami river. I examined 16 Buddhist statues, therefore I got the date and high definition images of these statues. The date obtained from these studies were published in the exhibition catalogue "Buddhist Statues Along Sagami River" at the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History in Autumn 2020.

研究分野：日本彫刻史

キーワード：仏像 相模国 肖像彫刻 時衆 相模国分寺 他阿真教

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

関東彫刻史研究の出発点である1964年発行の久野健編『関東彫刻の研究』では、神奈川県内の作例として123件が紹介されているが、その内本研究で扱う当該地域の仏像は3件(厚木市金剛寺阿弥陀如来坐像、同地蔵菩薩坐像、海老名市龍峰寺千手観音立像)しか採録されておらず、その7割以上が鎌倉市内の仏像で占められる。そのため鎌倉を中心とする大きな文化圏として神奈川県や東国を一元的に捉える考え方が一般的で、そのような認識は近年においても引き継がれている(清水眞澄「相模の仏像」『國華』1287号、2003年他)。こうした先行研究の背景には、悉皆調査の実施状況と作例の現存状況に偏りがあるなかで構築された視点であることが認められる。

しかし、薄井和男氏らによる彫刻悉皆調査によって、当該地域の彫刻作品(特に仏像)が多数存在することが明らかになってきた(相模原市教育委員会教育局生涯学習部博物館編『相模原市史 文化遺産編』2015年、相模湖町教育委員会編『相模湖の仏像』1994年、藤野町教育委員会編『藤野町の仏像』1991年他)。近年の調査等により、県央地域に豊富な仏教美術作品が存在する可能性が提示されつつある。

相模川中流域は、古代には相模国と武蔵国をつなぐ交通の要衝というだけでなく、中世には鎌倉、そして武蔵国・甲斐国を結ぶ水路、陸路の重要な拠点であり、さらに、古代の仏教の中心地である国分寺と国分尼寺、時宗の拠点である無量光寺、修験道の中心地である八菅山と飯山を含んでおり、他地域に比べて重要な寺社が多い。

### 2. 研究の目的

神奈川県の仏像彫刻といえば、鎌倉や三浦半島が注目されがちであるが、それら以外の地域にも近世以前の仏像は多数伝来する。なかでも本研究で対象とする相模川流域は古代には主として東岸に高座郡、西岸に愛甲郡・大住郡があり、相模川はその郡境であった。相模国府が大住郡に置かれ(平安時代後期に余綾郡に遷る)、奈良時代には官寺である相模国分寺と相模国分尼寺が高座郡に建立された。いわば相模川流域が古代相模国の政治と文化の中心地域であったのだ。そのような相模川流域の仏像の基礎データを蓄積し、この地域の彫刻史的特色に迫ることが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

相模川は山梨県の山中湖を源流とし上流では桂川、神奈川県にはいると相模川となり相模湾にそそぐ。相模原市・厚木市・海老名市・平塚市・茅ヶ崎市・座間市・寒川町・愛川町が相模川の流域の市町となる。

神奈川県立歴史博物館は前身の県立博物館の頃から、県内市町村が実施する彫刻資料悉皆調査等に携わり、その調書と画像データが保管されている。前述した相模川に接する六市二町は、すでに悉皆調査が実施されており、筆者はその際の調書や画像データを参照することができた。調査から約三十年経過しているものもあり、現在の日本彫刻史の水準で見直すことで、再評価される仏像があるのではないかと考えた。そこで調査資料をすべて見直し、再検討が必要な仏像をリストアップした。これらの研究の方法は、2022年度～2024年度の科学研究費基盤研究(C)「足柄地方の宗教彫刻に関する基礎的研究」(課題番号:22K00173)でも引き続き実施する予定である。

本報告書では調査を実施できた16件の仏像の調査報告と図版を紹介する。一方で本研究助成期間は新型コロナウイルス感染症の流行期間と重なり、当初の予定通りに進めることが困難であった。仏像調査は一人で実施することが難しい場合も多く、未実施の調査対象の仏像は多数ある。それらの調査と検討は今後の課題としたい。

本研究成果を含む展示として、神奈川県立歴史博物館において特別展「相模川流域のみほとけ」(会期:2020年10月10日～11月29日)を開催した。相模川流域の仏像が一堂に会した初めての特別展で、当該地域の仏教文化の一端について広く一般に紹介することができた。

また、本研究期間中に特別展「真教と時衆」が開催され、相模川流域に時衆の拠点となった無量光寺と清浄光寺が存在することから、時衆の実質的な開祖となった二祖他阿真教の肖像彫刻に注目した。研究代表者の所属機関では、文保2年(1318)に造像された寿像の小田原市・蓮台寺他阿真教坐像を保管している。東国に伝わるその他の真教の肖像彫刻である東京・法蓮寺像、埼玉・法臺寺像、山梨・称願寺像を実査し基礎データを得た。蓮台寺像を基準として、他の作例を彫刻史上に位置付ける基礎的な研究データを集めることができた。

東国の彫刻史研究では文献資料が少なく、相模川流域では基準作となる造像銘記を持つ仏像の数がわずかであることが研究の大きな障害となっている。紀年銘をもつ仏像は正安元年(1299)の厚木・金剛寺地蔵菩薩坐像くらいしかしられない。一方、文字資料は残っていないものの、平安時代や鎌倉時代に遡る仏像はすくなくない。それらの基礎的なデータと高精細な画像データを提示することで、他地域の仏像との比較研究が容易となるだろう。

#### 4. 研究成果

##### (1) 報告書

本研究課題で調査を実施した 16 件の仏像の基礎データと写真データをまとめた調査報告書（神野祐太『2018 年度～2020 年度 科学研究費助成事業 若手研究 研究成果報告書 課題番号 18K12252 相模川中流域の仏像彫刻に関する調査研究』、pp.1～pp.80、2022 年 3 月）を刊行した。収録掲載した仏像は相模原市・八幡神社聖観音菩薩像、同普門寺聖観音菩薩像、同顕鏡寺阿弥陀如来像、平塚市・神田寺十一面観音菩薩像、同明王院聖観音（白衣観音）菩薩像、藤沢市・法照寺十一面観音菩薩像、茅ヶ崎市・宝生寺阿弥陀如来及び両脇侍像、同浄見寺弁才天像、同上正寺南無仏太子像、海老名市・龍峰寺千手観音菩薩像、同国分寺不動明王像、厚木市建徳寺地藏菩薩像、同葦航道然像、埼玉県・法臺寺他阿真教像、東京都・法蓮寺他阿真教像、山梨県・称願寺他阿真教像である。いずれもこれまで存在は知られながら、基礎的なデータが刊行・提示されていなかった仏像である。たとえば、藤沢市・法照寺の十一面観音像はこれまで江戸時代に製作されたとされていたが、調査の結果平安時代 11 世紀に遡ることを指摘し、藤沢市内で最も古い仏像の可能性を提示した。茅ヶ崎市・浄見寺の弁才天像は南北朝時代～室町時代の作例として評価されていたが、その構造と作風から鎌倉時代 13 世紀の作例の可能性を指摘した。また、関東に伝来する時衆二祖の他阿真教の肖像彫刻を網羅的に調査できたことも大きい。

##### (2) 論文

発表した主な論文の概略を述べる。「養命寺薬師如来像に関する一考察」（『藤沢市文化財調査報告書』第 55 集、2020 年 3 月）は、藤沢市養命寺に伝来する薬師如来像について考察した。その作風が、建久 4 年（1193）の東京・大円寺釈迦如来像と共通していることを指摘し願主についてこれまでの研究史を整理しながら、三浦氏や大庭氏の関与を考察した。「相模川流域の仏像」（神奈川県立歴史博物館編『相模川流域のみほとけ』図録、神奈川県立歴史博物館、2020 年 10 月）は特別展「相模川流域のみほとけ」の総論として執筆した。古代から室町時代までの当該地域の歴史的な特徴を挙げながら、伝来する仏像を紹介した。「海老名・龍峰寺千手観音菩薩立像について」（『神奈川県立博物館研究報告 人文科学』第 48 号、2022 年 2 月）は実物の調査、修理記録等の調査を踏まえて、龍峰寺千手観音像について考察した。龍峰寺像は旧国宝に指定されており、大正・昭和時代には知られていたが、これまで単独で取り上げた論文はなく初めての専論となった。製作年代について、奈良時代や平安時代前期に造られた可能性について指摘した。

##### (3) 展覧会図録

特別展「相模川流域のみほとけ」の展覧会図録として『相模川流域のみほとけ』（神奈川県立歴史博物館編、神奈川県立歴史博物館、2020 年 10 月）を刊行した。上述した論文「相模川流域の仏像」や解説 49 件を執筆し、広く研究成果を発信することができた。

##### (4) 口頭発表等

「養命寺の仏さま」（主催：藤沢市明治公民館・郷土歴史課、会場：明治公民館、2019 年 5 月 30 日）では、藤沢市養命寺の諸像について考察し、口頭発表後、論文として刊行することができた。「相模川流域のみほとけたち」（主催：海老名市教育委員会（えびな文化財探求舎講演会）、会場：海老名市役所 401 会議室、2020 年 11 月 23 日）は特別展「相模川流域のみほとけ」の内容を地元海老名市の市民にわかりやすく紹介することができた。

##### (5) 受賞

上述した論文「相模川流域の仏像」によって早稲田大学美術史学会賞（2021 年 6 月 26 日授与）を受賞した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 なし
2. 論文標題 相模川流域の仏像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特別展図録『相模川流域のみほとけ』	6. 最初と最後の頁 pp.10-pp.16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 55
2. 論文標題 養命寺薬師如来像に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藤沢市文化財調査報告書	6. 最初と最後の頁 pp.1-pp.14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 48
2. 論文標題 海老名・龍峰寺千手観音菩薩立像について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告 人文科学	6. 最初と最後の頁 pp.1-pp.18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 1
2. 論文標題 宝蔵門四天王像に関する一考察 東大寺大仏殿様四天王像の一例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録』彫刻篇	6. 最初と最後の頁 pp.175-pp.180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 なし
2. 論文標題 神奈川県小田原市千代廃寺跡出土の塑像断片について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 肥田路美編『古代寺院の芸術世界』竹林舎	6. 最初と最後の頁 pp.245-pp.273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 46
2. 論文標題 神奈川・松蔭寺所蔵銅造如来坐像 (伝阿弥陀如来像) とその伝来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告 人文科学	6. 最初と最後の頁 pp.23-pp.40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 神野祐太
2. 発表標題 相模川流域のみほとけたち
3. 学会等名 海老名市教育委員会 (えびな文化財探求舎講演会) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神野祐太
2. 発表標題 養命寺の仏さま
3. 学会等名 明治公民館・藤沢市郷土歴史課共催
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神野祐太
2. 発表標題 神奈川県小田原市千代廃寺跡出土塑造仏像残欠について
3. 学会等名 早稲田大学美術史学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 神奈川県立歴史博物館編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神奈川県立歴史博物館	5. 総ページ数 144
3. 書名 相模川流域のみほとけ	

1. 著者名 神野祐太	4. 発行年 2022年
2. 出版社 なし	5. 総ページ数 80
3. 書名 2018年度～2020年度 科学研究費助成事業 若手研究 研究成果報告書 課題番号 18K12252 相模川中流域の仏像彫刻に関する調査研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>その他の研究業績</p> <p>神野祐太、解説24件、浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録』第一巻彫刻篇、金龍山浅草寺、2018年7月</p> <p>神野祐太、解説18件、遊行寺宝物館・神奈川県立歴史博物館編『真教と時衆』図録、時宗・時宗総本山清浄光寺、2019年9月</p> <p>神野祐太「阿弥陀如来及び両脇侍像（小田原市蓮台寺）」『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇第16巻、中央公論美術出版、2020年3月</p> <p>神野祐太、解説49件、神奈川県立歴史博物館編『相模川流域のみほとけ』図録、神奈川県立歴史博物館、2020年10月</p> <p>神野祐太、解説3件、横浜市歴史博物館編『横浜の仏像 しられざるみほとけたち』図録、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2021年1月</p> <p>神野祐太「神奈川の仏像をめぐって」『中外日報』2021年6月23日発行</p> <p>神野祐太、解説13件、長岡龍作監修『神像彫刻重要資料集成』第1巻東日本編、国書刊行会、2021年10月</p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------